



2026年3月期 第2四半期

# 経営説明会

2025年11月21日  
レンゴー株式会社  
(証券コード 3941)



本文書に含まれる情報の全部又は一部を無断で複製、転用することはご遠慮ください。  
© 2025 Rengo Co., Ltd. All rights reserved.

皆さま、本日はお忙しい中、経営説明会の場にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

目次

業績	2026年3月期 第2四半期の総括 -----	3
	2026年3月期 通期の見通し -----	4
「Vision120」	Vision120(2025年度～2029年度)の始動 -----	5
各事業での取組み	板紙・紙加工関連事業での取組み -----	6
	軟包装関連事業での取組み -----	9
	重包装関連事業での取組み -----	10
	軟包装関連事業／重包装関連事業での取組み -----	11
	海外関連事業での取組み -----	12
サステナビリティ	GHG排出量の削減 -----	15
株主還元	配当政策ならびにステークホルダーとの対話の方針 -----	16

本日はまず、2026年3月期第2四半期の業績総括の後、通期の業績見通しについてご説明いたします。続いて、各事業の当期の取組みとして、板紙・紙加工、軟包装、重包装、そして海外関連事業の具体的な戦略についてご紹介します。また、サステナビリティにおけるGHG排出量削減の取組みについてもご説明いたします。

最後に、配当政策ならびにステークホルダーとの対話の方針についてお伝えします。

どうぞよろしくお願いいたします。

## 2026年3月期 第2四半期の総括

## 第2四半期業績

	25/9期 期初予想	25/9期 実績	(億円) 差異
売上高	5,020	4,972	△ 48
営業利益	200	200	0
経常利益	200	200	0
親会社株主に帰属する 中間純利益	120	110	△ 10
1株当たり中間純利益(円)	48.4	44.5	

## 概況

- 売上高は、期初予想比の達成率99%とほぼ想定どおり。前年度実施分の価格改定が寄与。海外関連事業の不振を軟包装関連事業がカバー。
- 営業利益は、期初予想どおり。固定費や物流費の増加、海外関連事業の不振を価格改定の寄与や軟包装関連事業がカバー。
- 親会社株主に帰属する中間純利益は、前年度の新規連結(アールエム東セロ)に伴う負のれん発生益の反動減で減益も、ほぼ想定どおり。

## 事業環境



## 製紙・段ボール

- 製品価格改定が寄与
- 固定費や物流費が増加
- 生産は概ね横ばいで推移



## 軟包装

- 製品価格改定が寄与
- 生活必需品を中心に堅調な需要
- 前年度の新規連結による一過性費用による影響が剥落



## 重包装

- 製品価格改定が寄与
- 前年度好調だった工業樹脂製品が不振
- 電気材料分野が好調



## 海外

- ドイツを中心に欧州で自動車産業の低迷が影響
- 為替は前年同期より円高に変動

レンゴーグループの取組み | 2025年11月21日 経営説明会

3

まず、2026年3月期第2四半期の業績について総括いたします。

売上高につきましては、期初予想比で達成率99%とほぼ想定どおりの結果となりました。前年度に実施した価格改定が寄与し、海外関連事業の不振を軟包装関連事業がカバーしました。

営業利益は、固定費や物流費の増加、海外関連事業の不振が影響しましたが、価格改定の効果や軟包装関連事業の貢献により、期初予想どおりの結果となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、前年度のアールエム東セロの新規連結に伴う負のれん発生益の反動減があり、減益ではありますが、ほぼ想定どおりの結果となりました。

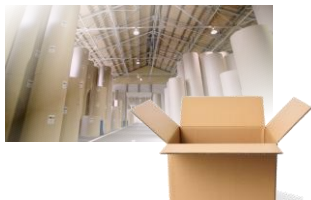
以上が第2四半期の総括となります。

## 2026年3月期 通期の見通し

## 通期見通し

## 板紙・紙加工関連事業

売上高に占める構成比(25/9期)…………… 52%



(営業利益の増減要因別 期初予想比での傾向)

要因	通期での見通し
数量要因	段ボール生産量(通期)前年比+2.1%の想定に対し、上期は同-0.1%と出遅れ 景気には持ち直しの動きがみられるが、物価上昇の影響で需要が下押しされるリスクも
価格要因	前年度に実施した製品価格改定の寄与が継続 本年10月からの原紙・製品価格改定の効果は来年度以降に顕在化する見通し
原料価格	上期の段ボール古紙価格は想定比0.5円/kg程度の安値、下期も大きくは変動しない可能性
エネルギー価格	原油価格低下や為替円高のメリットはベース単価の引上げ等により一部相殺、運賃上昇は継続 (原油価格感応度)1ドル/bblにつき営業利益2億円/年、ただし発現には約半年のタイムラグ (為替感応度)1円/USDにつき同2億円/年
固定費	人件費、減価償却費の増加は想定どおりも、その他の経費はインフレの影響から想定を上回って推移

## 軟包装関連事業

売上高に占める構成比(25/9期)…………… 19%



堅調な需要をベースにフィルム・軟包装製品一貫体制の強みを活かすことで増益を目指す

## 重包装関連事業

売上高に占める構成比(25/9期)…………… 5%



数量面での出遅れ、特に工業樹脂製品の上期の不振をカバーするよう拡販を図る

## 海外関連事業

売上高に占める構成比(25/9期)…………… 20%



ドイツの景気持ち直しが足踏みも、欧州におけるグループ間のシナジーをより一層高め、早期の改善を目指す

## その他の事業

売上高に占める構成比(25/9期)…………… 4%



運送事業では固定費の増加が継続、受注が振るわない包装システム事業では減収の見通し

レンゴーグループの取組み | 2025年11月21日 経営説明会

4

次に、2026年3月期の通期業績の見通しについてご説明いたします。

数量要因につきまして、段ボール生産量は通期で前年比プラス2.1%というのが期初の見込みでしたが、上期はプラス0.1%と出遅れました。しかし、今後は持ち直しの動きが出てくるものと考えています。

価格要因につきましては、前年度に実施した製品価格改定の効果が引き続き寄与する見通しですが、この10月からの原紙・製品価格改定の効果が顕在化してくるのは来年度以降の見通しです。

原燃料価格については当面、大きな変動は見込んでいません。

事業別の見通しでは、軟包装関連事業で堅調な需要のもと、原材料であるフィルムの製造から、軟包装製品への印刷加工を一手に引き受け一貫体制を強みに、増益を見込んでいます。重包装関連事業では、上期の工業樹脂製品の不振をカバーするための営業努力を続けています。海外関連事業では、ドイツの景気持ち直しが足踏みしていますが、欧州におけるグループ間のシナジーをより一層高め、早期の改善を目指します。

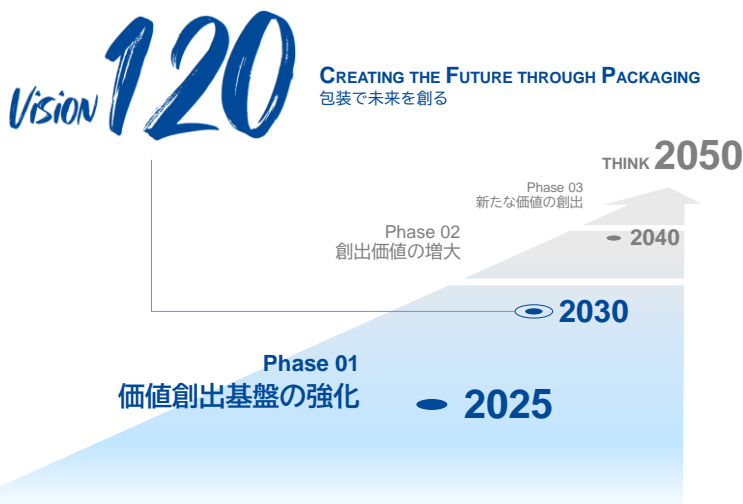
外部環境は依然として厳しい状況にありますが、私たちレンゴーグループはゼネラル・パッケージング・インダストリーとして、着実に前進してまいります。

## Vision120(2025年度～2029年度)の始動

(2025年5月16日公表)

## スローガンと長期での位置付け

「Creating the Future through Packaging — 包装で未来を創る」をスローガンに、2050年の未来にもつながる「価値創出基盤の強化」に取り組む5年間とする



## 重点テーマ

- 各事業の取組み**  
板紙・紙加工\*、軟包装、重包装、海外、その他の5つの事業セグメントがそれぞれの強みを最大限に活かし、収益性の改善と価値創出力の向上を図る  
\*事業セグメントの「板紙・紙加工」とは、ヘキサゴン経営の製紙・段ボール・紙器の各事業を総称したものです。  
板紙・紙加工 軟包装 重包装 海外 その他
- マテリアリティへの取組み**  
気候変動や人権などのESG課題の内、特に重要なものと特定された分野に経営資源を集中させ、グループ一丸となって社会的課題の解決に取り組む  
「パッケージプロバイダー」としての新たな価値創出 地球環境との共生  
人を中心におく経営 持続的成長に向けた経営基盤の強化
- グループ経営の進化/深化**  
事業環境の変化に対応するため、グループでの連携強化を最優先課題として取り組む  
一貫体制の進化/深化 グローバル経営の進化/深化

## 財務指標

2029年度にかけての目標

売上高	営業利益	
1.2兆円	700億円	
EBITDA	ROE	D/Eレシオ
1,350億円	8.5%	0.7倍

レンゴーグループの取組み | 2025年11月21日 経営説明会 | 5

皆さまにはご承知のとおり、当社は本年5月に今年度をスタートとする5年間の中期ビジョン「Vision120」を公表しました。

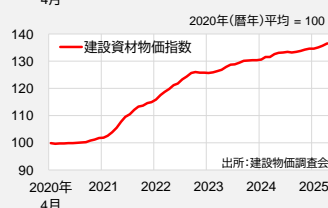
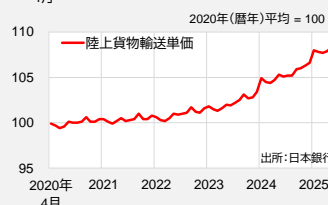
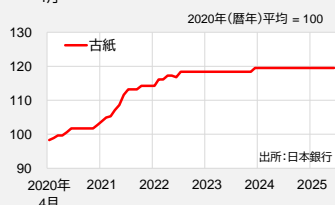
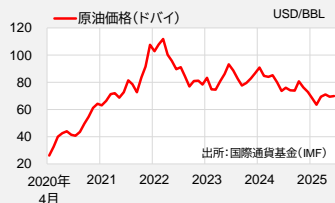
「Creating the Future through Packaging — 包装で未来を創る」をスローガンに掲げ、2050年の未来につながる「価値創出基盤の強化」、将来において新たな価値の創出を可能にする足場固めに取り組み始めたところです。



## ヘキサゴン経営 板紙・紙加工関連事業での取組み

## コスト構造の変化

世界的インフレ・関税政策の影響  
バリューチェーン全般にわたるコスト構造が変化



安定供給、品質維持のために

## 原紙・製品価格を改定



段ボール原紙・紙管原紙・チップボール

発表日	2025年7月3日
改定日(発表ベース)	2025年10月1日納品分より
改定幅	+10円/kg以上

段ボール製品・紙器製品

発表日	2025年7月3日
改定日(発表ベース)	2025年10月1日納品分より
改定幅	個別提示

- 発表日以降、ユーザーに対し個別に背景を説明
- 価格改定の時期や改定巾について慎重に交渉するとともに、物流問題への対応を鑑み、納入条件の改善等も求めながら収益改善に努める
- 持続可能なバリューチェーンの実現に向け、交渉を通じてユーザーとの相互理解を深める

レンゴーグループの取組み | 2025年11月21日 経営説明会

6

ここからは、各事業の取組みについてご説明いたします。

まず、板紙・紙加工関連事業での当期の取組みについてです。

現在、私たちの事業は、原燃料や諸資材の価格上昇と高止まり、労務費の上昇、物流コストの増加といったコスト構造の変化に直面しています。また、パートナーシップの維持や設備の修繕費用の高騰、さらには環境対策の実施も重要な課題となっています。これらの要因は、世界的なインフレや関税政策といった背景もあり、バリューチェーン全体にわたって継続的な影響を及ぼしています。

このような状況を受け、私たちは安定供給と品質維持を確保するために、7月3日に原紙・製品価格の改定を発表しました。価格改定の時期や改定巾については慎重にユーザーと交渉しております。また、物流問題への対応を鑑み、納入条件の改善等も求めながら収益改善に努めております。

私たちは一連の交渉を通じて、ユーザーとのパートナーシップをさらに深めるとともに、持続可能なバリューチェーンの実現を目指してまいります。





## ヘキサゴン経営 板紙・紙加工関連事業での取り組み

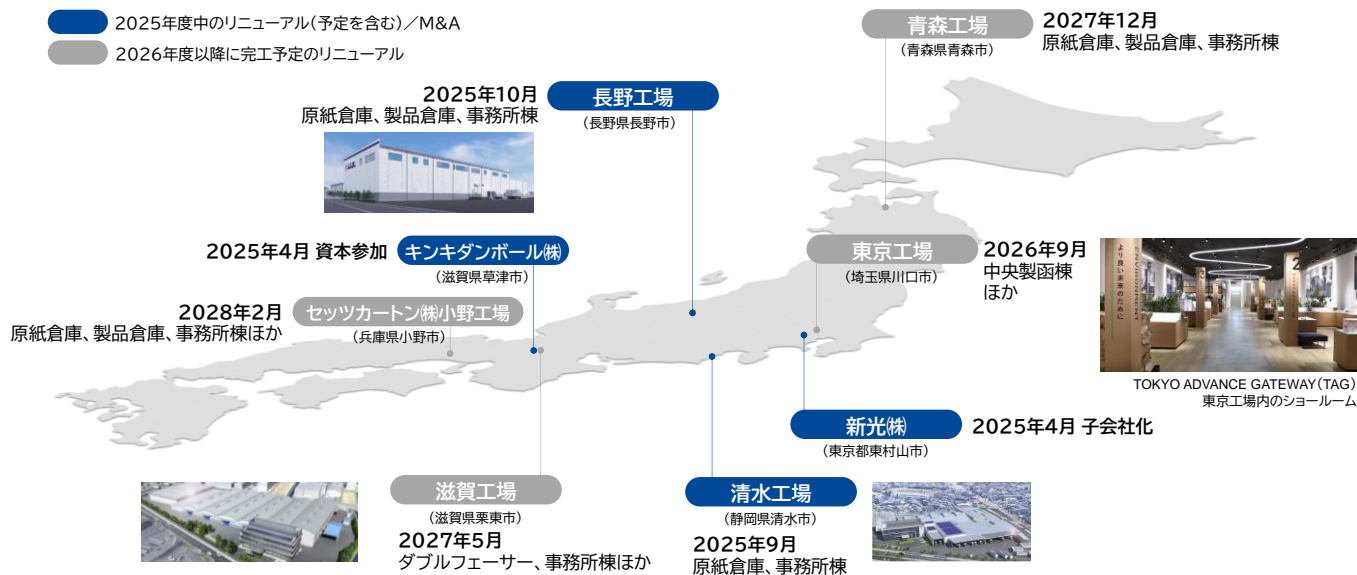
### 工場リニューアル・M&Aのトピックス

トップメーカーとしての事業基盤の競争優位性とバリューチェーンの持続可能性を高める

(凡例) 記載の年月は完工予定

2025年度中のリニューアル(予定を含む)/M&A

2026年度以降に完工予定のリニューアル



レンゴーグループの取り組み | 2025年11月21日 経営説明会

7

私たちは、トップメーカーとしての事業基盤の競争優位性とバリューチェーンの持続可能性を高めるため、段ボール工場のリニューアルを進めています。

具体的なリニューアル対象はご覧のとおりです。東京工場では、2021年3月にリニューアルに着手しましたが、2026年9月により総合竣工となる予定です。同工場内には「いまを創り、未来へ進む」をコンセプトとしたショールーム、Tokyo Advance Gatewayを併設し、ユーザーへの新たな提案の場として機能しています。

## ヘキサゴン経営 板紙・紙加工関連事業での取組み

## 大興製紙の構造改革

抄紙機の集約とエネルギー転換の後、バイオエタノール事業の立上げに向け事業構造改革を推進



## 5号機(クラフト紙)の稼働

- 2025年1月、経営改善のための構造改革の施策の一環として、主力抄紙機5号機の品質・生産性の向上を目的とした改造工事が完了。
- 5号機と6号機(クラフト紙)に生産集約の後、1号機と2号機は停機、抄紙機2台体制に移行(投資額77億円)。

## クラフト紙の製造・販売



**主要品目**  
重袋用クラフト紙、軽包装用クラフト紙等

**年間生産量**  
同社 51千トン / 業界 754千トン(包装用紙)  
(典拠:日本製紙連合会、2024年[暦年]実績)

## 特殊紙の製造・販売



**主要品目**  
金属合紙、プリント基板クッション紙等

**年間生産量**  
同社 89千トン / 業界 662千トン(雑種紙)  
(典拠:日本製紙連合会、2024年[暦年]実績)

## クラフトパルプの製造・販売



**主要品目**  
NUKP  
(針葉樹チップから一貫工程で生産)

**年間生産量**  
同社 70千トン / 業界 1,026千トン(UKP)  
(典拠:経済産業省、2024年[暦年]実績)

## リサイクル事業



**受入れ品目**  
(原料チップもしくは燃料として利用)  
建設廃材、家屋解体材、パレット等  
(燃料として利用)  
廃プラ、紙屑、汚泥、繊維屑

2021年9月に子会社化した大興製紙では、抄紙機の集約ならびに重油からバイオマスへのエネルギー転換とともに、バイオエタノール事業の立上げに向け事業構造改革を推進しています。その取組みの一環として、本年1月に改造工事を完了した5号機では立上げから稼働の安定に時間を要しましたが、現在は歩留りの向上が進んでおり、今後販売量の伸長に取り組んでまいります。





## ヘキサゴン経営 軟包装関連事業での取組み

### 一貫体制の「進化」

開発から供給、販売に至るまでの全プロセスで柔軟性と効率性を高める



#### Topic

アールエム東セロ株式会社  
基幹システム更新



#### 概要

- 完成時期:2026年3月
- 総投資額:4億円

#### 目的と効果

- 三井化学グループの共通業務システムから離脱、新規システム基盤を導入し効率化を図る



#### Topic

株式会社タキガワ・コーポレーション・ジャパン  
自動製品倉庫建設(千葉県船橋市)



#### 概要

- 完成時期:2025年9月
- 総投資額:11億円

#### 目的と効果

- 外部倉庫費用削減と増産で早期でのプラス効果を見込む

#### Topic

アールエム東セロ株式会社 茨城工場  
OPフィルムスリッター更新(茨城県古河市)



#### 概要

- 完成時期:2026年2月
- 総投資額:6億円

#### 目的と効果

- 生産性の向上により、収益性の高い差別化品の拡販を図る

### 一貫体制の「深化」

アールエム東セロ(2024年4月より連結)の統合効果を高めるべく、PMI(Post merger integration)の完成度を高め垂直統合によるシナジーを最大化させる

続いて、軟包装関連事業での取組みについてご説明いたします。

この事業では、「一貫体制の「進化」と「深化」をテーマに、さらなる成長を目指しています。

まず、進む方の「進化」についてです。開発から供給、販売に至るまでの全プロセスで、柔軟性と効率性を高めることに注力しています。

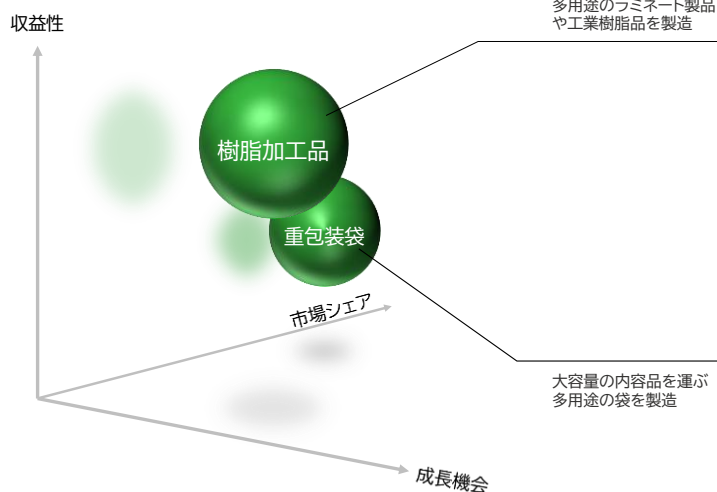
深める方の「深化」の取組みとして、昨年からグループに加わったアールエム東セロのPMIの完成度を高め、垂直統合によるシナジーを最大化させることを目指しています。同社では新システムを導入し、業務の効率化にも取り組んでいます。



## ヘキサゴン経営 重包装関連事業での取組み

### 日本マタイの成長戦略

- 医療・食品包材、肥料袋、コンテナバッグ、自動車部品など、多岐にわたる産業に対応する製品を展開。製袋加工・樹脂加工技術を駆使し、多彩な製品群を提供。
- 需要構造の変化に柔軟に対応し、高付加価値分野へのシフトを推進。
- 新たな需要動向を迅速に把握し、市場拡大機会を確実に捉える。



### 樹脂加工品

フィルムラミネート



紙ラミネート



クロスラミネート



電子部品搬送用ラミネート



熱可塑性フィルム



ネット資材



「重包装袋」と「樹脂加工品」—  
二つの柱それぞれが支え合い、価値を生み出す。

### 重包装袋

ポリエチレン重袋



クラフト紙袋



フレキシブルコンテナ



レンゴーグループの取組み | 2025年11月21日 経営説明会

10

続いて、重包装関連事業での取組みについてご説明いたします。

日本マタイの成長戦略では、医療・食品包材、肥料袋、コンテナバッグ、自動車部品など、多岐にわたる産業に対応する製品を展開しています。「重包装袋」と「樹脂加工品」という二つの柱が互いに支え合い、価値を生み出す体制のもと、製袋加工や樹脂加工技術を駆使し、多彩な製品群を提供することで、需要構造の変化に柔軟に対応し、高付加価値分野へのシフトを推進しています。

高収益・高成長市場へのポートフォリオ転換を進める中、国内トップシェアを占める重包装袋事業の底堅さを保ちつつ、付加価値の大きい樹脂加工品のポテンシャルを最大限に引き出すことで、重包装関連事業のさらなる成長を目指してまいります。

## ヘキサゴン経営 軟包装関連事業／重包装関連事業での取り組み



## マテリアリティ「持続可能な包装の提供」

社会的課題の解決に資する包装製品の開発と普及を通じ、持続可能な社会の形成に貢献します。

## 主な施策

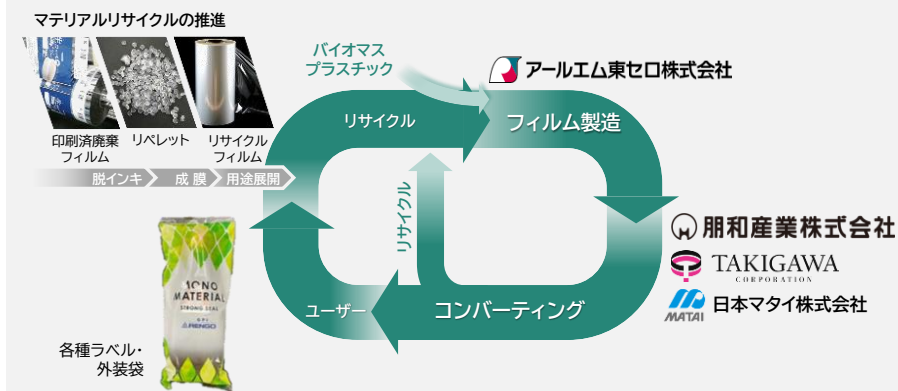
- 環境配慮型紙製品の開発と普及
- 環境配慮型プラスチック製品の普及と推進
- 低炭素型パッケージの推進

## マテリアリティ中期目標

## 環境配慮型プラスチック製品

2030年度 売上高比率 **20%**

## レンゴーグループが目指すプラスチック事業のマテリアルフロー



当社グループでは、バイオマスプラスチックやリサイクルプラスチックを使用したもの、あるいはモノマテリアル(単一素材)構成の製品を環境配慮型プラスチック製品と位置付けています。

これらのReduce, Recycleの2RにRenewableを加えた「2R+R」に配慮した製品の売上高を当社グループのプラスチック事業において20%とすることを2030年度の目標に、グループをあげてプラスチックの使用量の削減、リサイクル材やバイオマス原料の利用拡大を進めます。

続いて、軟包装関連事業と重包装関連事業における事業横断的な取り組みについてご説明いたします。私たちは、マテリアリティとして「持続可能な包装の提供」を掲げ、社会的課題の解決に資する包装製品の開発と普及を通じて、持続可能な社会を形成することを目指しています。その一環として、環境配慮型プラスチック製品の普及と推進に注力しています。

当社グループでは、バイオマスプラスチックやリサイクルプラスチックを使用した製品、あるいはモノマテリアル(単一素材)構成の製品を環境配慮型プラスチック製品と位置付けています。これらの製品において、Reduce、Recycleの2RにRenewableを加えた「2R+R」に配慮した製品の売上高を、当社グループのプラスチック事業において2030年度までに20%とすることを目標に掲げています。今後、当社はグループをあげてリサイクル材やバイオマス原料の利用拡大を進め、新しい時代にふさわしいプラスチックのマテリアルフローを築いてまいります。



## ヘキサゴン経営 海外関連事業での取り組み

## 海外事業の拡大と収益向上に向けた課題と取り組み

- 今後の成長に向けた原動力としての新たな事業展開
- 国内外の既存ネットワークの有効活用による取引拡大と現地化の推進
- 「選択と集中」をキーワードとした経営資源配分の見直し
- グローバルなフィールドに対応した人材育成

## 海外グループ企業

**211** 社 前年同期比+8社

(2025年9月末現在、非連結対象会社を含む)

## 直近の主な取り組み

## インド

ヴェルヴィン・レンゴー・コンテナーズ社(当社持分=30%)  
- 新工場が稼働開始(2024年9月)  
- 今後の展開の足掛かりとして、同社との協業拡大を図る

## トライウォールグループ

- 現在15拠点のファブリケーターを展開  
- 今後もファブリケーターネットワークの拡充を図る

## 中国

無錫聯合包装有限公司  
- 上海聯合(清算)の商圏移管が完了(2025年2月)

## ASEAN

朋和パッケージング(タイランド)社  
- 新工場が完成(2025年6月)

タキガワ・コーポレーション・ベトナム社  
- 第2工場が完成予定(2026年3月)

## 欧州

トライコー社  
- ゴッホ新工場が稼働開始(2025年7月)

トライウォール社  
- イタリア スカート社を子会社化(2025年7月)

レンゴーグループの取り組み | 2025年11月21日 経営説明会

12

続いて、海外関連事業での取り組みについてご説明いたします。

現在、2025年9月末時点において、当社の海外グループ企業は前年同期比で8社増加の211社となっています。

今後の当社グループ全体の成長に向けた原動力として、新たな事業展開を推進するとともに、国内外の既存ネットワークを有効活用し、取引拡大と現地化を進めることで、事業基盤を強化しています。また、「選択と集中」をキーワードに、経営資源の配分を見直し、効率的な運営を図っています。さらに、グローバルなフィールドに対応した人材育成にも力を入れています。

直近の主な取り組みについては、スライドに示した内容の中からいくつかをご紹介します。

## ヘキサゴン経営 海外関連事業での取り組み

## トライコー社 ゴッホ新工場稼働開始(ドイツ)

## グローバルな重量物包装事業のさらなる拡充を推進

- 2025年7月15日、段ボールシートの製造を開始
- ドイツ北部のユーザーとの取引をバートヴェリスホーフェン本社工場から移管
- 新工場周辺顧客を開拓
- トライウォールグループの拠点にシートを供給



バートヴェリスホーフェン本社工場

貼合から製函、出荷に至るまでの全工程を一体化した効率的な生産体制を採用  
クリーンエネルギーでCO<sub>2</sub>排出量削減にも貢献

## 工場概要

所在地	Gocher Grenzweg, 47574 Goch, Germany (ドイツ北西部 ゴッホ工業団地)
生産品目	重量物段ボールシート・ケース
総投資額	254億円
主要製造設備	2.8mコルゲーター×1 フレキシブルアステッチャ×4 プリントダイカッタ×1 ワンタッチグルア×4
その他主要設備	自動倉庫、太陽光パネル



レンゴグループの取り組み | 2025年11月21日 経営説明会

13

2025年7月15日、ドイツにおいてトライコー社のゴッホ新工場が稼働を開始し、段ボールシートの製造を開始しました。この新工場は従来、外部から購入してきた段ボールシートの内製化とともに、ドイツ北部のユーザーとの取引を同国南部に位置するバートヴェリスホーフェン本社工場から移管することで見込まれる受注量・生産量の増加に対応することを目的としています。

新工場は貼合から製函、出荷に至るまでの全工程を一体化した効率的な生産体制を採用しており、太陽光発電設備の使用等でCO<sub>2</sub>排出量の削減にも貢献しています。



## ヘキサゴン経営 海外関連事業での取り組み

## 朋和産業(タイランド)社 新工場建設

- 2025年6月、タイ・サラブリー県で新工場が完成
- 日本と同じ製造環境、品質管理と生産管理の体制を構築
- 無人フォークリフトの採用など、省力化・効率化を実現
- 太陽光発電設備の導入でCO2削減にも貢献

## 朋和産業(タイランド)社 サラブリー工場概要

所在地	11/1 Moo 4, Bualoy, Nongkhae, Saraburi 18140, Thailand
敷地面積	8,800㎡
生産品目	軟包装資材
総投資額	26億円



## グローバルの軟包装需要拡大に対応

## タキガワ・コーポレーション・ベトナム社 第二工場建設

## モノマテリアル化対応も見据える軟包装製品供給基地

- 欧米のユーザー(ペットフードメーカー)向けを中心に成長分野の軟包装需要を取り込む
- 今後欧米での進展が見込まれるモノマテリアル化を見据えた設備の導入を予定
- 2026年3月完成予定
- 総投資額(見込み) 21億円



第二工場完成予想図

続いて、海外関連事業における軟包装分野の取り組みについてご紹介します。

まず、朋和産業(タイランド)社についてです。2025年6月にタイ・サラブリー県で新工場が完成しました。この工場では、日本と同じ製造環境、品質管理、そして生産管理の体制を構築しています。無人フォークリフトの採用などにより、省力化と効率化を実現し、太陽光発電設備の導入によってCO2削減にも貢献しています。

次に、タキガワ・コーポレーション・ベトナム社の取り組みです。こちらは今後の計画として、第二工場の建設を予定しています。欧米の得意先であるペットフードメーカー向けを中心に、成長分野の軟包装需要を取り込むことを目指しています。今後、欧米での進展が見込まれるモノマテリアル化を見据えた設備の導入を予定しており、2026年3月に完成予定です。

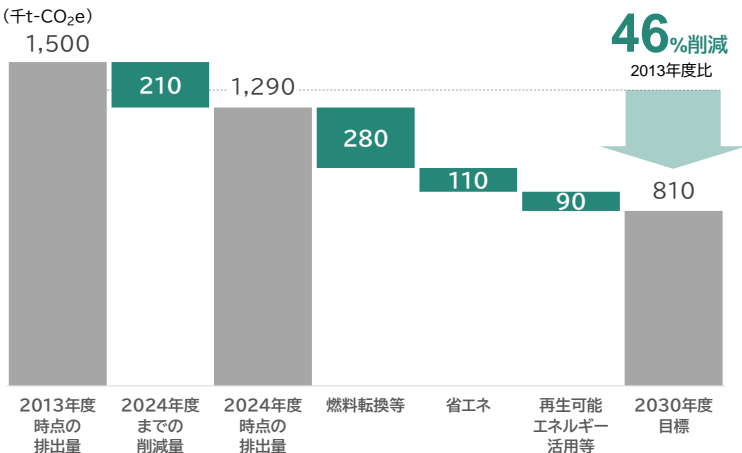
これらの取り組みにより、グローバルな軟包装需要の拡大に対応してまいります。

## サステナビリティ GHG排出量の削減

## 脱炭素ロードマップ

対象ガス： 温室効果ガス排出量(温対法に基づく調整後排出量)  
対象範囲： レンゴー単体および国内連結子会社(2025年3月31日時点)

(千t-CO<sub>2</sub>e)



## 主なプロジェクト

## 2025 年度

レンゴー 金津工場  
石炭からLNGに燃料転換  
(投資額 95億円)

CO<sub>2</sub> 130千トン

## 2026 年度

丸三製紙  
石炭からLNGに燃料転換  
(投資額 95億円)

CO<sub>2</sub> 48千トン

レンゴー 八潮工場  
第2バイオマスボイラの導入  
(投資額 90億円)

CO<sub>2</sub> 25千トン

## 2024年度/2027 年度

大興製紙  
5号抄紙機改造/  
バイオエタノール設備  
(投資額 220億円)

CO<sub>2</sub> 29千トン

## マテリアリティ「地球環境との共生」

温室効果ガスの削減など、事業活動による気候変動への影響を抑える「気候変動の緩和」と、自然災害によるサプライチェーンの寸断リスクに備える「気候変動への適応」に取り組めます。

レンゴーグループの取組み | 2025年11月21日 経営説明会 | 15

続いて、サステナビリティにおけるGHG排出量削減の取組みについてご説明いたします。

私たちは、脱炭素ロードマップに基づき、2013年度比で46%の削減を目指しています。この目標達成に向けて、今後の主な投資を計画しています。

まず今年度、レンゴー金津工場において、石炭からLNGへの燃料転換が完了します。GHG13万トンの削減を見込んでいます。

次に、2026年度には丸三製紙で同様に石炭からLNGへの燃料転換を行い、4万8千トンの削減を目指します。また、レンゴー八潮工場では第2バイオマスボイラの導入を予定しており、2万5千トンの削減を見込んでいます。

さらに、大興製紙では昨年度実施した5号抄紙機の改造と2027年度に予定のバイオエタノール設備の導入により、2万9千トンの削減を計画しています。

当社は、マテリアリティとして「地球環境との共生」を掲げており、温室効果ガスの削減を通じて、事業活動による気候変動への影響を抑える「気候変動の緩和」と、自然災害によるサプライチェーンの寸断リスクに備える「気候変動への適応」に取り組んでまいります。

## 配当政策ならびにステークホルダーとの対話の方針

### 配当政策

業績の動向、財務状況、今後の事業展開等を総合的かつ長期的に勘案して、継続的かつ安定的に配当を行うことを維持しつつ、利益成長にあわせた増配を目指す**累進的な配当政策**

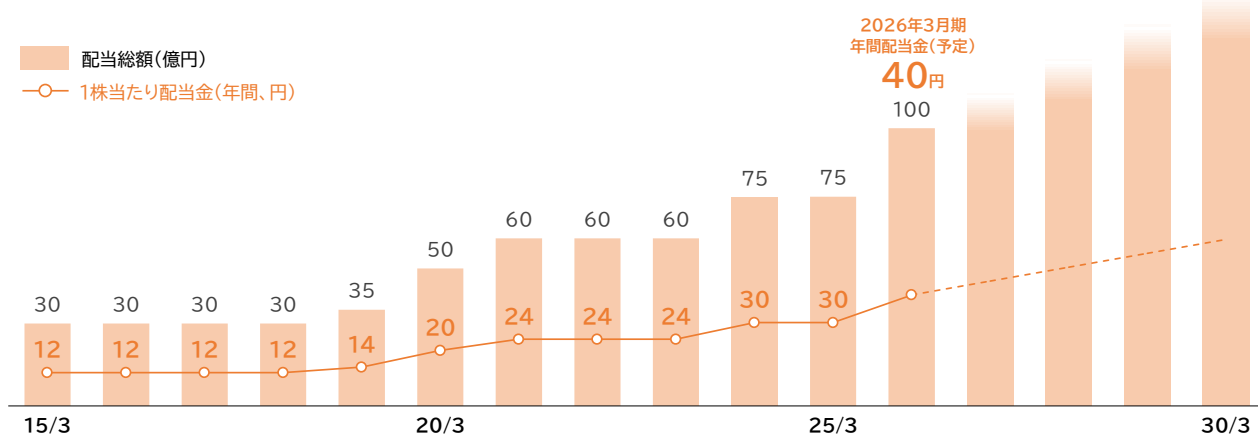
### 対話の方針

ステークホルダーとの**建設的な対話**を通じ、持続可能な企業価値向上に取り組む

2030年3月期  
年間配当金(目標)  
**60円～**

■ 配当総額(億円)

—○— 1株当たり配当金(年間、円)



レンゴーグループの取り組み | 2025年11月21日 経営説明会

16

続いて、配当政策についてご説明いたします。

当社は、業績の動向、財務状況、今後の事業展開などを総合的かつ長期的に勘案し、継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としています。利益成長に合わせた増配を目指す累進的な配当政策を採用しており、2026年3月期の年間配当金は、中期ビジョン「Vision120」で掲げた配当水準に向けて、前期に比べ10円増配し、1株につき40円を予定しています。また、ビジョンの最終年度に当たる2030年3月期には、1株につき60円は確保できるよう着実に取り組むとともに、政策保有株式については2030年3月期までに250億円の縮減を計画しており、できるだけ早期に売却を進めたい考えです。

当社は今後もステークホルダーとの建設的な対話を通じて、持続可能な企業価値の向上を実現したいと考えています。透明性のある情報開示を行い、ステークホルダーの皆様との信頼関係を築くことを目指しています。

## 企業価値の向上に向けて

「Vision120」(2025年度～2029年度)

成長と分配の好循環の実現



自ら未来をデザインし新たな市場を開拓する「パッケージプロバイダー」としての使命を胸に、世界でベストワンの総合包装企業集団を目指し、創業120周年を迎える2029年度までの5カ年をより強固な価値創出基盤を確立する期間と位置付け、グループ一丸となって全てのコア事業における収益基盤のさらなる強化を図る



人本主義を経営の柱に据え、全要素生産性の向上を図ることにより生み出される付加価値を適切に分配し次の成長につなげる「成長と分配の好循環」を持続的に実現する

当社は、自ら未来をデザインし、新たな市場を開拓する「パッケージプロバイダー」としての使命を胸に、世界でベストワンの総合包装企業集団を目指しています。「Vision120」の達成に向け、グループ一丸となって全てのコア事業における収益基盤のさらなる強化を図ってまいります。

また、人本主義を経営の柱に据え、全要素生産性の向上を図ることで生み出される付加価値を適切に分配し、次の成長につなげる「成長と分配の好循環」を持続的に実現していきます。

今後とも、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## レンゴー株式会社

530-0005 大阪市北区中之島2-2-7 中之島セントラルタワー  
Email: [ir@rengo.co.jp](mailto:ir@rengo.co.jp)  
<https://www.rengo.co.jp>

### 免責事項

本資料に含まれる事業戦略や業績予想等に関する内容については、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。記載された業績予想数値等は、将来の計画に関して実現を保障するものではありません。



“The **best** packaging provider  
in the **world**”

本文書に含まれる情報の全部又は一部を無断で複製、転載することをご遠慮ください。  
© 2025 Rengo Co., Ltd. All rights reserved.